

# 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について

## 令和6年10月8日

### 枚方市立西長尾小学校

文部科学省が今年4月に実施した、令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

#### ※調査結果について

教科や出題範囲が限られていることから、全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部分です。

## 学力調査の結果

### <学力調査結果の概要> (◎はよい傾向が見られたもの、△は課題として力をつける必要があるものを示す)

#### ○国語について

→ ◎ 伝え合う内容を検討したり、伝えたいことを明確にする力、交流する場面での適切な話し方への気づき、伝わるように書き表し方を工夫する力、文中の主語と述語の関係をとらえる力

△ 漢字を文の中で正しく使うことができる力、資料を活用して考えを伝える力、物語の描写をもとに登場人物の心情や全体像を時間内にとらえる力

傾向……対話的な場面での話し合いは得意で、伝わるように書く工夫はできる。

その一方で、多くの文によって成り立っている物語や話し合いの様子をまとめた文章を読んでその概要をとらえまとめることには課題がある。

#### ○算数【数学】について

→ ◎ 基本的な概念理解(図形、変化と関係、データの活用)、条件を直感的に把握する力、計算する力

△ 基本的な概念に、条件や複数の要素が関係した場合の関係性を把握する力、また、その関係性をもとに、問われたことを導き出し、言葉と数を使って表現する力

傾向……基本的な概念理解が、基礎として定着していない傾向がある。

計算の性質を応用する力、図形の特徴や性質、速さと距離の関係性等、複数の条件を把握し、自分の言葉で正しい理解を記述することに課題がある。

※ 国語・算数どちらの教科においても、本質的には、まず問われていることを正しく理解し把握する力(読解力)が必要である。

# 国語科において成果があった設問

## 【成果が見られた設問】

### 問題の概要 <1三>

オンラインで交流する場面において、【和田さんのメモ】がどのように役に立ったのかを説明したものと、適切なものを選択する

### 趣旨

目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる

【和田さんに届いたメールの内容】

あて先 △△△@△△△△△.jp  
件名 オンライン交流について

海風小学校 和田 みなみさん

はじめまして。  
深緑小学校の村木です。わたしの学校は、全校で105人います。学校の周りには、茶畑が広がっています。今、わたしががんばろうと思っていることは、図書委員として、本が好きな子を増やすことです。オンライン交流では、和田さんの学校の図書委員会の取り組みを教えてほしいです。当日を楽しみにしています。よろしくをお願いします。

深緑小学校 村木 かおる

【和田さんに届いたメールの内容】

【和田さんのメモ】

村木さんが知りたいこと	自分が伝えたいこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>図書委員会の取り組み</li> <li>読書イベント</li> <li>月に1回</li> <li>クイズなど</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アイデア絵画</li> <li>年に2回</li> <li>自分たちが考えたこと</li> </ul>
これは伝えたい	<ul style="list-style-type: none"> <li>地いきならではの取り組み</li> <li>総合的な学習の時間</li> <li>進の生き物の調査</li> <li>すなはまの清そう活動</li> <li>学期に1回</li> <li>音楽クラブの演奏会</li> <li>担当の楽器は木さん</li> <li>地いきの行事に参加</li> </ul>
用意するもの	
<ul style="list-style-type: none"> <li>クイズが書かれたカード</li> <li>海の生き物の写真</li> </ul>	

【和田さんのメモ】

これは伝えたい

質問されたら答える

用意するもの

クイズが書かれたカード

海の生き物の写真

1 海風小学校の和田さんの学年では、深緑小学校の村木さんという学校と学校の取り組みをオンラインでしようか話し合おうとしています。次は、村木さんから事前に「和田さんに届いたメールの内容」です。これをよく読んで、おのの問いに答えましょう。

### 考察

設題1は、Society5.0の時代に必要とされる資質・能力の状況を調べるものとして、はじめて出題された指導事項に関する問いです。  
(第5学年及び第6学年の「思考力、判断力、表現力等」の「A話すこと・聞くこと」の「話題の設定、情報の収集、内容の検討」に関する指導事項を取り上げています)

本校で昨年度から継続実施している、「非認知能力を育む創作劇活動」により、話し合いが好きで得意な子どもたちが育っている裏付けの一つととらえています。

### 問題の概要 <2ニ>

【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基にして書く

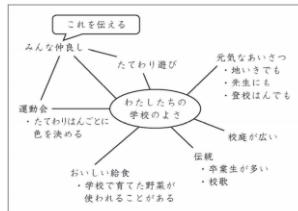
### 趣旨

目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる

※上の罫線用紙は下書き用紙で、使っても構いません。解答は、解答用紙に書きます。  
※の印から書きましょう。どちらで書き直さないで、続けて書きましょう。

- (条件)
- 「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書くこと。
  - 「高山さんの取材メモ」の下書きに書いたことか言葉や文を取り上げて書くこと。
  - 六十文字以上、百字以内にとらえて書くこと。

【高山さんのメモ】



【高山さんの考え】

「たてわり遊び」と「運動会」は、どちらも1年生から6年生までが同じ「たてわりはん」で活動して、みんなが仲よしになる。このことが学校の一番のよさだと思うから、文章に書くこと。

【高山さんの文章】

みんな仲よし「たてわりはん」

わたしたちの学校には、1年生から6年生までのメンバーが、同じく活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人とも仲良くなります。

「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、3色対決です。上級生が下級生に勝つのは、下級生も楽しむように、さきよさの作戦を考えたりします。「みんなつな引きをして楽しい」という2年生や、「下級生といっしょに応援して熱い気持ちになる」という3年生がいます。このように、「運動会」のよさは、みんなの心が一つになることだと思います。

「たてわり遊び」は、毎月1回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ活動です。みんなが楽しめるように、6年生が、遊びたいことを下級生に聞いて、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジボールでは、上級生が遠くからボールを、くねらせるようにしています。

【高山さんの取材メモ】

「たてわり遊び」について

6年生がくふうしていること

- 遊びたいことを下級生に聞く
- ルールをくふうする
- ドッジボール 上級生は遠くからボールをくねらせる

下級生に聞いたこと

- 1年生 お兄さんやお姉さんと遊んで楽しかった
- 2年生 好きな遊びや新しい友達が増えた
- 3年生 みんなが仲よしになって楽しかった
- 4年生 みんなが仲よしになって楽しかった

2 高山さんのメモでは、学校のよさを伝える文章を書くことになりました。高山さんは、学校のよさを伝える文章を書くことになりました。高山さんは、学校のよさを伝える文章を書くことになりました。高山さんは、学校のよさを伝える文章を書くことになりました。

### 考察

この問題も、相手に伝えるようにいかに工夫するかという、非認知能力のうちの、「他者と協働するための力」である「他者への敬意」「協調性」等といった、他者意識に立つ力が思考の土台に育っていることを示しているととらえています。

このような他者とのかわりに関する能力は、技術だけでなく、それらを発揮するよさを具体的に体験していることも実力発揮に生かされます。

# 算数科において成果があった設問

## 【成果が見られた設問】

問題の概要 <問3(4)>

五角柱の面の数を書き、そのわけを底面と側面に着目して書く

趣旨

角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる

(4) ことねさんたちは、角柱の面の数について考えています。



三角柱



四角柱



五角柱



ことね

三角柱の面は5つです。三角柱には、底面が2つ、側面が3つあるからです。



はると

四角柱の面は6つです。



ひより

五角柱の面はいくつかな。

五角柱の面はいくつですか。答えを書きましょう。

また、そのわけを、底面と側面がそれぞれいくつあるのかわかるようにして、言葉と数を使って書きましょう。

そのとき、「底面」、「側面」の2つの言葉を使いましょう。

考察

立体図形について、図形の要素や位置関係に着目し、図形の構成の仕方や性質について考察できるかどうかをみる問題です。

この問題は、問題文が対話的なので、読みやすかったようです。

一方で、立体から展開図を想像したり、箱にぴったり入る球と箱の関係を読み取るような、具体的にイメージを追加して考察する問題は、正答率が低く、生活の中に生かす視点を持つなど、実感を伴いながら図形についての理解を深める必要があります。

問題の概要

3分間で180m歩くことを基に、1800mを歩くのにかかる時間を書く

趣旨

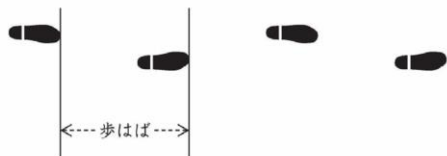
速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる

4

あいなさんたちは、時間や速さなどについて考えています。

(1) あいなさんは、家から学校までの歩数を求めます。

家から学校までの道のりは、540 mです。あいなさんの歩はばを0.6 mとします。



家から学校までの歩数は、 $540 \div 0.6$  の式で求めることができます。

$540 \div 0.6$  を計算しましょう。

(2) たけるさんは、3分間で180 m歩きました。同じ速さで歩き続けると、

1800 mを歩くのに何分間かかりますか。

答えを書きましょう。

考察

異種の二つの量の割合の比べ方や表し方について理解していることと、それを目的に応じて比べたり表現したりする力をみます。

この問いも平面的なわかりやすい図をもとに、想像し、短い文で示された問いの求めるものについて基本的な理解を素直に解答できました。

一方で地図や帯状の図などに複数の情報が示され、問題文がそれを補う形で問いが成立する問題では、正答率が低くなりました。学習の場で、学んだことが生活に結びついていることをさまざまに形振り返る必要があります。

# 質問紙調査の結果

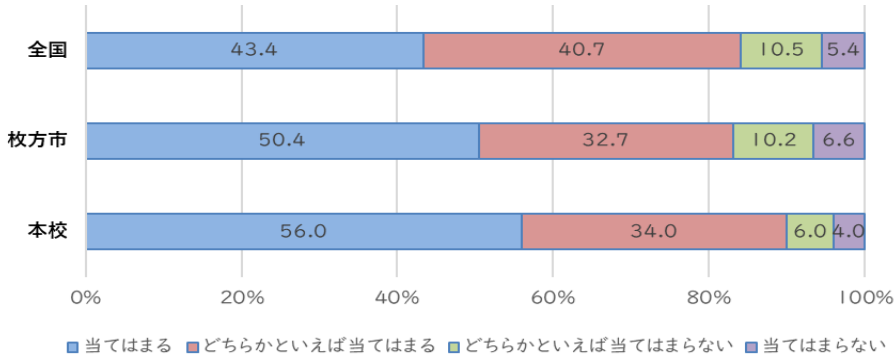
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。

※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。

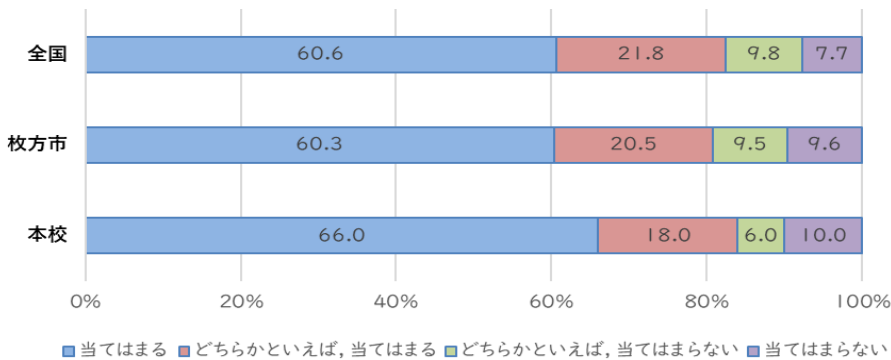
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。

## 【成果が見られた項目】

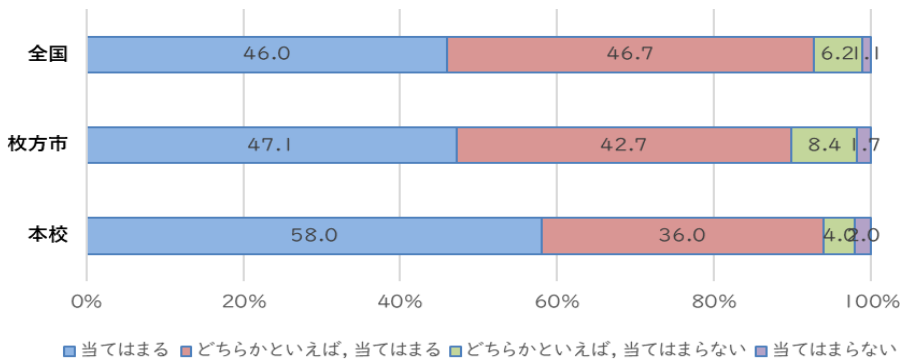
### 9 自分には、よいところがあると思う



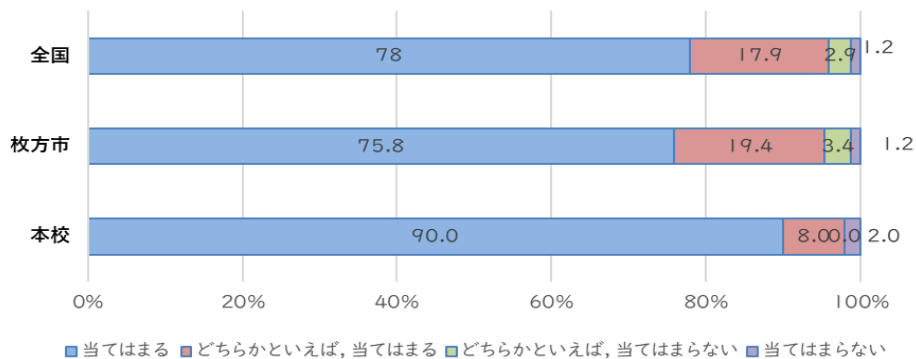
### 11 将来の夢や目標を持っている



### 12 人が困っているときは、進んで助けていますか



### 13 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う



## (考察)

自己有用感・自己肯定感が非常に高く、周囲の人への思いやりを大切にする集団の温かさを感じる結果が出ました。

関わり合うことの「よさ」を振り返る場としての創作劇活動や、昨年度から全校で取り組んでいる非認知能力を高めるための取組の積み重ねが、お互いの良さを認め合う集団の文化・関係性作りにも役立っていると考えています。

今年度も、非認知能力を育む授業改善の研究をテーマに、全職員が非認知能力を見立てる力を高める努力をしています。引き続き、児童理解力の向上のための取り組みは継続していくべきだととらえています。

## (考察)

12や13の結果のように他者意識に立てる傾向が強い集団ですが、他のアンケート結果にもあるように少数の否定的意見の児童にも心を砕き、1人ももれなく安心してもらえる学校づくりに、団結して取り組んでいきます。

# 質問紙調査の結果

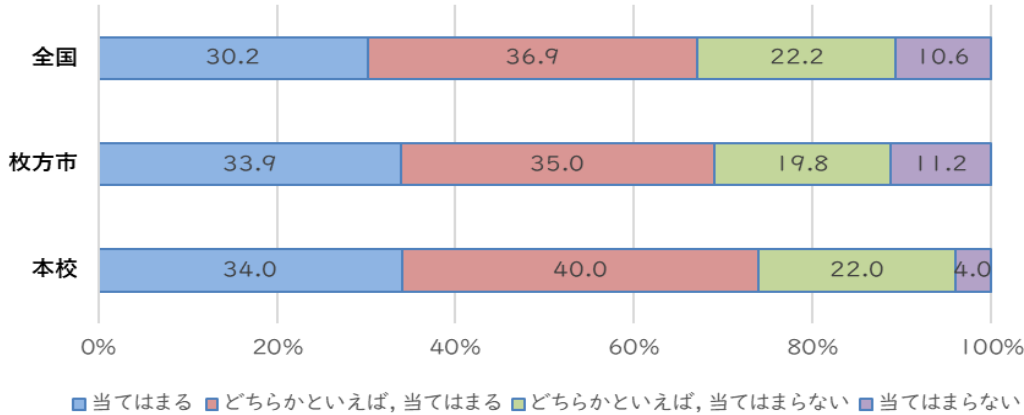
## 【成果と課題が見られた項目】

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。

※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。

※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

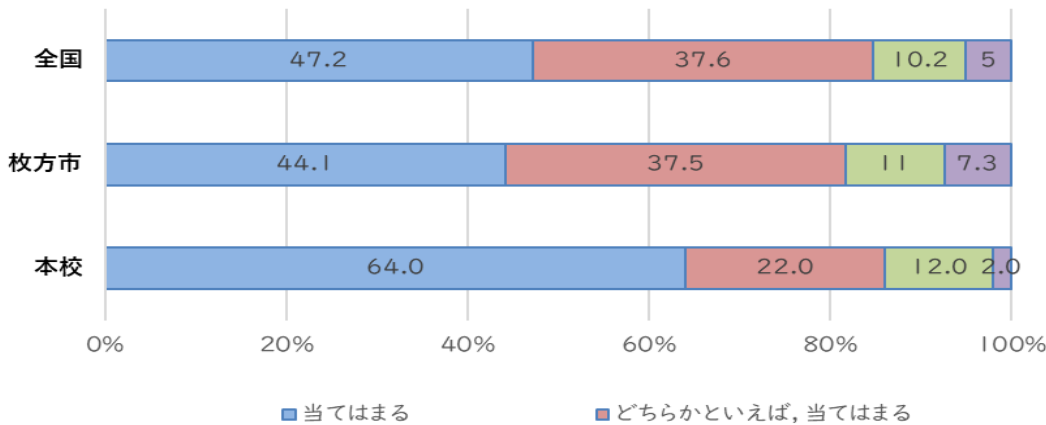
14 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



### (考察)

14は、学校への信頼感を示す項目です。全国を上回っていますが、一人も取り残さないよう心して受け止めます。

16 学校に行くのは楽しいと思えますか

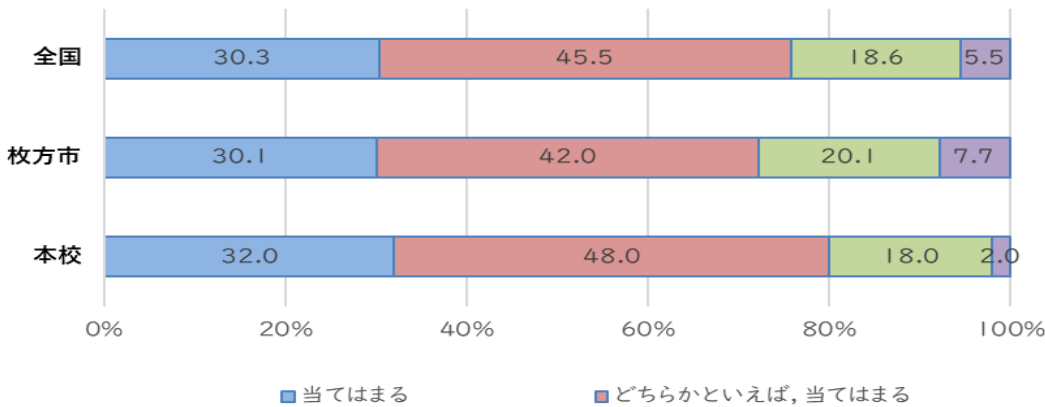


### (考察)

16・17の結果には、かわりあうことを肯定的に受け止める姿勢があることを示しています。

学校では、話し合いをして考えを深め、課題解決をする機会を数多く設けてきました。そのような場で、肯定的に結論を出すという経験の積み重ねの成果だといえます。

17 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思えますか



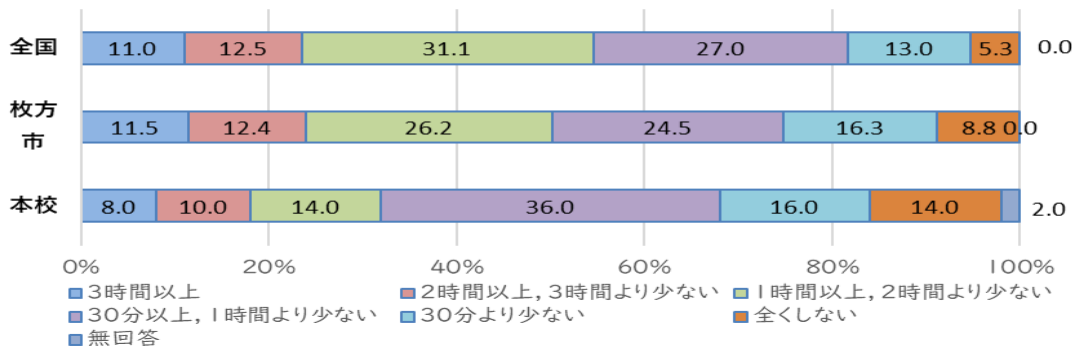
### (考察)

21の結果を見ると、30分以上学校の授業時間以外で学習している本校の児童は、全国比で0.83となります。

自学自習力の向上が本校の今後の課題です。

自ら進んで学ぶ姿勢を育む環境づくりや働きかけの工夫が必要です。

21 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



## 分析結果を踏まえて取り組んでいくこと

### (1) 授業改善について

概要分析のとおり、昨年度から全学年で始めた非認知能力を育む取組は、一定の成果を生んでいるといえます。その一方で、国語・算数どちらについても「読解」の力が本質的な課題であることが浮き彫りになってきました。

特に、算数では、問題文を十分読み取れず、何のために式を立てるのかを丁寧に考えないで立式している傾向がみられます。せっかく基本的な概念を理解しているのに、それを具体的に活用するとき（問題文を読んで解答するときなど）に十分活かすことができていないようです。そのため、しっかりした根拠を持って式を立てる意識と習慣を育む必要があります。授業で現れる問題文や説明の「文章の論理的理解」（どんな条件で、何を求めようとしているのか。何を導き出そうとしているのか等）を意識し、丁寧に読み込み、子どもたち自身が、自分で「問いを理解する」という姿勢で、設問や課題に取り組む必要があると考えられます。

また、読解には多くの文章に触れ、慣れることも大切です。読書活動も、一部の学級において継続している「ビブリオバトル」の機会を増やすなど、ただ単に読みましようとなえるのではなく、「読書の面白さや楽しさを共感できる機会」を増やし、動機づけにつながる工夫を全校で検討していきます。

何事も日常の積み重ねが、思考の習慣を育みます。教職員一同、本質的な視点で課題を共有し、子どもたちが主体的に取り組む環境を整えること意識しながら、取り組んでいきます。

### (2) 家庭学習について

昨年度から、自主学習ノートの取組を各学級で実施していますが、児童が学びたいことを「自己決定できる」ものとして、大切にに取り組んでいきます。さらに今後は、各教科の中で、子どもたちが、自身で発展的な課題を決めて探究的に取り組めるような単元からの広がりを持てるような授業展開も模索していきます。

今年の校内研究はテーマを「非認知能力を育む授業改善の手立ての研究」とし、すべての教職員が、授業のなかで子どもたちが発揮する非認知能力（自分と向き合う力、他者とつながる力、自分を高める力）を見立て、価値づける力を磨こうと努力しています。自己決定する機会が個別最適な学びの入り口の一つです。自己を主体的に高める姿勢を前向きに育めるよう、教職員自身も自己を高める努力を継続していく決意です。

日常の学習の中で、生きる力の土台ともいえる、学ぶための力を大きく支えるのが「学ぶ動機」です。学びの中で受けた感動が、将来の自分の姿につながるように、アンテナを高く持ちながら一人一人の児童の学びを支えていきます。

保護者の皆様におかれましては、子どもたちの努力を、ご家庭でも認め、励ましてくださいますようお願いいたします。